

埼玉県議会議員

山根ふみ子県政レポート



【発行】埼玉民主フォーラム川越支部 川越市古市場 427-1 TEL 049-257-6682 FAX 049-257-6683

令和3年2月19日（金）に開かれた埼玉県議会2月定例議会では令和3年度当初予算案が提出されました。新型コロナウイルス対策として県民の皆様への安心、県内中小企業の皆様への支援等、過去最大規模である2.1兆円の予算が可決しました。

～大野県政3つの考えに基づいた～

令和3年度埼玉県当初予算案

一般会計 2兆 1,198 億 4,300 万円 前年度比+8.1%

(全会計合計 3兆 5,026 億 9,833 万 9 千円)

13 か月予算による切れ目のない公共事業等の実施（令和2年度2月補正）

一般会計 444 億 2,360 万 6 千円 前年度比+1.5%

〈安心・安全の強化〉…新型コロナウイルス感染症拡大防止のため検査・医療提供体制の強化やワクチン接種体制の整備（3.3億円）を計上。国と連動して県土の強靱化！流域治水対策（112億円）を推進。シナリオを作成

し、図上訓練を繰り返し危機や災害に強い埼玉を構築（16,06百万円）。警察業務の効率化による警察力の強化（2.4億円）。児童虐待防止対策の強化（9.5億円）など

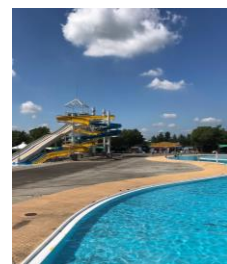
〈DX（デジタルトランスフォーメーション）〉の推進と県経済の回復・成長…行政分野や中小企業などにおけるDXの取組を推進。埼玉誕生150周年記念事業。オリンピック・パラリンピック関連事業。魅力ある埼玉の発信で経済回復へつなげる事業（18.4億円）。

〈持続可能で豊かな未来への投資〉…埼玉版SDGsを推進。女性や高齢者、外国人、LGBTQなど誰もが活躍できる社会の実現。「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」や「あと数マイルプロジェクト」の推進。など

川越で活かされる埼玉県予算

○川越公園（川越水上公園）プールの改修やテニスコートの改修等 約2億8千万円

○旧道移管工事…片柳川越線、川越坂戸毛呂山線○橋梁架け替え委託・工事…川越日高線の新琵琶橋○街路整備委託補修…川越北環状線○交差点改良委託…川越栗橋線、川越日高線○舗装修繕…狭山ふじみ野線○天端舗装工事、測量設計…新河岸川○河床低下対策工事…南小畔川○舗装修繕工事…川越日高線の連雀町・笠幡、国道254号線の大仙波・松郷・川越北環状線の上野田町、○橋梁修繕塗装塗替…川越日高線の霞が関歩道橋、川越坂戸毛呂山線の仙波歩道橋○橋梁修繕工事…川越上尾線の入間大橋、国道254号線の落合橋 など



新型コロナウイルス ワクチン接種について

※1 全て2回分同時接種

※2 5月10日の週から安定的に高齢者のワクチンが分配される見通し

出荷時期	医療従事者等 (約 24 万人)			65 歳以上高齢者 (193.6 万人)	
	埼玉県の分配	接種人数	充足率	埼玉県分配※1	接種人数
4/19 の週まで	190 箱	210,600 人分	87.5%	22 箱	10,725 人分
4/26 の週～ 5/3 の週～				282 箱	137,475 人分
5/10 の週～	58 箱 (2 回分)	33,930 人分	100%	未定 (16,000 箱) ※2	
5/24 の週～				未定 (16,000 箱以上) ※2	

5月10日の週以降の65歳以上高齢者向けワクチン分配予測

【分配量決定の手順】

- ① 市町村がV-SYS (ワクチン接種円滑化システム) を通じて分量希望量をエントリー
- ② 国は、市町村からの希望量を踏まえて都道府県へ分配
- ③ 県はV-SYSを用いて自動計算を行い、市町村へ分配→各市町村の希望量などに応じて機械的に分配

川越市の場合…

これまでの確保数 14 箱 + 5/10 及び 5/17 の週の分配数 47 箱 = 合計 61 箱

仮に今後、国から県への分配数が 4/26 週と 5/3 週と同じ比率で分配された場合



実績：全国で 4,000 箱 → 埼玉県へ 219 箱

推計：全国で 16,000 箱 → 埼玉県へ 876 箱

分配時期	65 歳以上高齢者 (約 193.6 万人)
	埼玉県への分配予測
5/10 の週～ 5/17 の週～	876 箱
5/24 の週～ 5/31 の週～	876 箱以上
6/7 の週～ 6/14 の週～ 6/21 の週～ 6/28 の週～	5 月を上回る規模で分配 ※6 月末までに 65 歳以上の 高齢者全員分が分配される

予算特別委員会

2 月定例会で設置された予算特別委員会では、令和 3 年度の予算案に対し、山根議員は委員として多分野に亘り新規事業を中心に種々発言。大野知事に対して発言が許される総括質疑では会派を代表し、日頃より、県民・川越市民の皆様からお寄せいただいている声をもとに発言をいたしました。

主な議論は以下の通りです。

Q：病児病後児保育の整備促進について

A：体調不良となった子供を保育園に迎えに行き病児保育施設に預けるというもので新年度モデル事業として 2 か所で実施する。

Q：介護現場における介護ロボットや ICT の活用による業務の効率化と今後の事業展開について

A：未来を見据え持続可能な介護現場に向けた政策の在り方について協議会の中で協議している。

Q：県内中小企業支援策について、不平等感があつたり支援から漏れてしまう業種もあつた。今後は？

A：国の事業については、公平な制度となるよう地域事情を踏まえ引き続き国に主張し要望する。

